

令和2年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞(事務次官賞)

「 先人の知恵を生かす土砂災害対策 」

岐阜県 岐阜大学教育学部附属小中学校 8年 若原 千大^{わかばら ちひろ}

防災の日は、関東大震災があった9月1日にちなんで制定されたそうだ。もとより、立春から数えて212日は、厄日として古来から警戒されてきた。稲の開花と台風の時期が重なりやすいこの時期は、風を鎮める祭が今も各地に残っているようだ。

令和になって元年、2年と自然災害がたて続けに発生し、その前年の平成最後の7月も、台風と梅雨前線の影響で西日本を中心に集中豪雨の被害が広がった。その後も立て続けに発生した台風の中で、特に印象に残っているのは、四国から近畿、北陸へと縦断した台風21号だ。この台風も各地に大きな被害をもたらした。典型的な風台風で、関西国際空港では観測史上最大の強風となる風速50.1メートルの猛烈な風を観測したそうだ。気象庁の指標によれば風速60メートルは鉄塔を変形させるほどというから、風は侮れない。強風は各地で猛威を振るい、根元から倒れた街路樹や横転したトラック、倒壊する家屋、風に流され橋梁に衝突するタンカーなど、センセーショナルな映像をいくつも目にした。僕の住む岐阜市でも、最大瞬間風速が39メートルを記録し、多くの被害が出た。その日は休校となり、昼間は両親は仕事で不在のため、兄と妹と僕の3人で家にいた。強風が吹き荒れ、外からはミシミシと木がきしむ不穏な音もしてきて不安が募り、インターネットで必死で情報収集したのを覚えている。台風通過後、我が家のシンボルツリーが根元からぽっきり折れ、車庫に刺さっているのを発見したときは驚いた。

最近の災害の特徴の1つは、崖崩れなどの土砂災害が増えたことだと思う。平成26年、平成30年の広島市の土砂災害で多くの人命が失われた。真夜中に、集中的かつ長時間にわたり大量の雨が降ったことにより山の土砂が大量に町に流れ出し、大災害になった広島市以外でも各地で大きな土砂災害が立て続けに発生している。

また、北海道胆振東部地震では、地震によって広い範囲で土砂崩れが発生した映像をニュースで見て、あまりの酷さに現実のものとは思えなかった。この土砂災害も地震だけが原因でなく、豪雨により地盤が緩んでいた可能性が指摘されている。最近の突然で激しい雨の降り方の傾向を見ると、いつ土砂災害が発生しても不思議ではない。

僕達は、日頃からハザードマップなどを参考に避難場所を確認し、降雨時は最新の情報を入手して行動するなど、自分の身を守るための細心の行動が求められていると思う。

それ以上に必要とされるのが、いわゆる「おばあちゃんの知恵袋」ではないが、先人たちが積み重ねてきた伝承などを知ることだ。この伝承は、必ずしも科学的根拠があるものではないが、実際に、その伝承により命を救われた事例が存在する。

それは、東日本大震災で大きな津波被害を受けた東北地方の三陸海岸地域の言い伝えで、津波が来たら各自がてんでんばらばらに1人で高いところへ逃げろというものだ。昔から何度も大きな津波被害に見舞われてきたこの地域ならではの伝承で、各家庭で代々言い伝えられてきたそうだ。この地域はリアス式海岸のため津波の速度が速く被害が大きくなるため、一族の全滅を避けるための知恵として、自分1人でも逃げろという趣旨のようだ。東日本大震災で校舎が津波に飲み込まれたにもかかわらず、この言い伝えを忠実に実行し、1人1人の機転の利いた判断で高台に避難した釜石東中学校の生徒たちは、誰も命を落とさなかったと報道されていた。自助、共助、公助といわれるが、災害、特に土砂災害発生などの緊急時には自助が最優先だ。一瞬の判断ミスが生死に直結する。そして、自分自身が助からねば他者を助けることもできない。とにかく最初は自分で自分の命を守らなければならないということを、その地で生きるための知恵として伝承してきたのだと思う。

ある書物に「人は己の利益を忘れ、他人のために役に立つことで質の高い快感を得られる」とあった。最終的にみんなの役に立てるよう、まずはきちんと自助をすることが必要だと思う。

現代は情報革命により、好きな時に好きな情報を得ることが出来る。土砂災害などが予見される時には、落ち着いて正しい情報を得て行動したい。もちろん、先人の知恵を生かすことも忘れては

令和2年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞(事務次官賞)

いけない。そのため、普段から地域住民、とりわけその地域に長く暮らす年長の方々との交流が欠かせない。

今後は、積極的に地域行事に参加し、年長の方から過去の出来事などを教えてもらいたい。それらを自助に活用するだけでなく、家族や友人とも共有して、みんなで、災害を乗り越えていきたいと思う。